

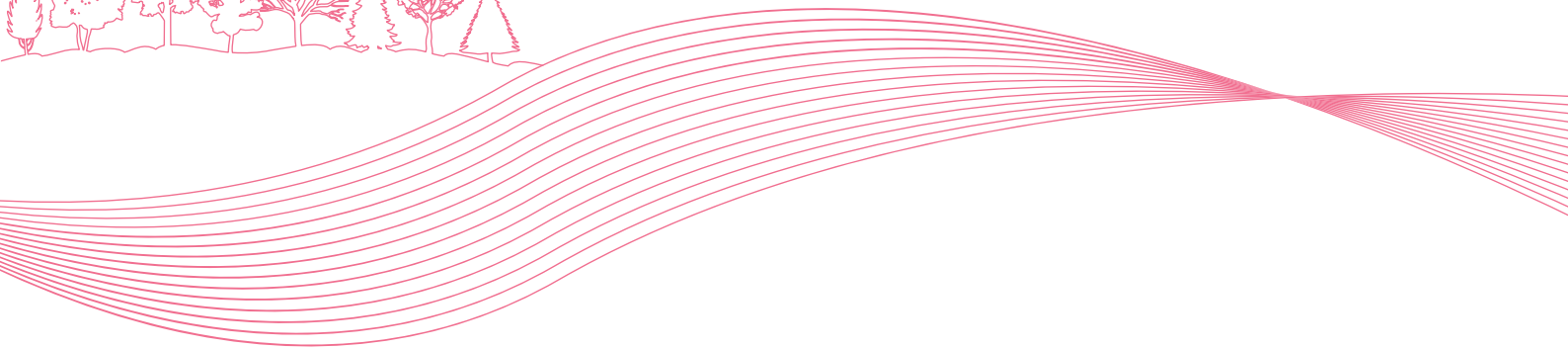
TACMINA

2026

環境・社会・
経済活動レポート

Sustainability Report

2024年度～2025年度 報告



タクミナの環境活動

いま企業に求められる環境負荷低減への取り組みは、
「取り組むことが望ましい」という段階から、
社会的責任として当然のものへと変化しています。
とくにモノづくりを行うメーカーでは、
研究・開発から製造、販売、物流、廃棄に至るまで、
事業活動のあらゆる場面が環境負荷と深く関わっており、
その低減に向けた取り組みは
これまで以上に重要な課題となっています。
こうした状況を踏まえ、
当社でも環境負荷の低減を大切な課題と位置づけ、
継続的な取り組みを進めています。
本レポートでは、当社の環境に対する基本姿勢と
具体的な取り組みについてご紹介いたします。



「次世代に残そう自然と資源」

私たち人間は「地球に生まれている生物種のひとつ」として子孫と他の生物種に対し、
人間が傷めた自然を回復させ守る責任と義務を負っています。
人間はこれまで経済を最優先させ、自然の浄化能力を遙かに超える負荷を与え続けてきました。
しかし、もう猶予はありません。当社は事業の創生期から環境（公害）問題に取り組んできたという
自負を持っていますが、企業活動は時として環境に負荷を与えることとなります。
当社は環境関連機器で育まれた企業として、いえ、そんな企業だからこそ、
環境問題に積極的に取り組むべきだと考えております。



環境方針

社名に表現しているように「技術と自然の調和」は最重要課題のひとつであり、自然環境保全を重要な活動の項目と認識しています。

「次世代に残そう、自然と資源」

【環境理念】

株式会社タクミナの研究・開発と生産の拠点を置く「生野町」は、兵庫県を代表する市川と円山川の分水嶺の地、緑豊かな生野高原の麓に位置しています。社名に表現しているように「技術と自然の調和」は最重要課題のひとつであり、自然環境保護を重要な企業活動項目と位置付け、継続的に取り組めます。

【活動指針】

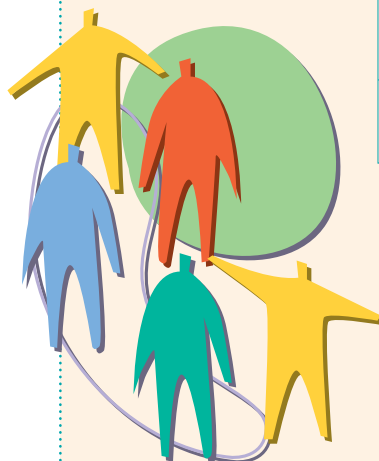
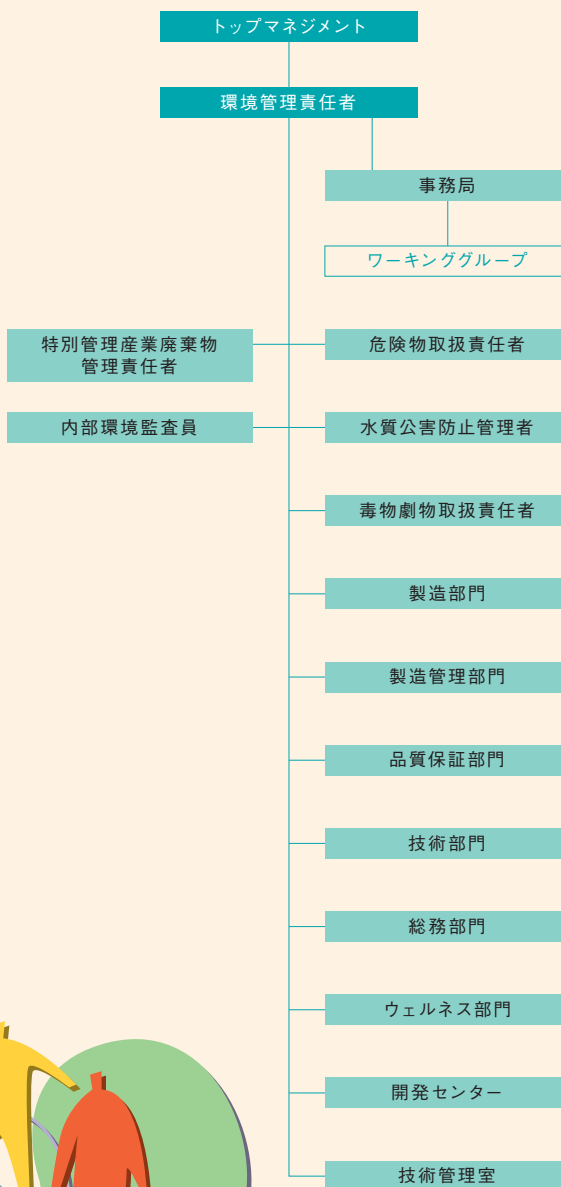
- 1 株式会社タクミナは、独自に構築した「スムーズフローテクノロジー」を応用する流体制御関連事業、並びにスポーツクラブ事業において環境目標を定め、見直し、継続的な改善向上を図ります。
- 2 株式会社タクミナは、環境側面に関わる法規制並びに同意したその他要求事項を順守します。
- 3 研究・開発から製造の各工程において以下の項目に配慮し、環境に優しい企業活動と製品を提供します。
 - a. 資源、エネルギーを大切に、廃棄物の削減と再利用に努めます。
 - b. 環境に配慮した商品開発を推進し、環境負荷のより少ない流体制御システムを提案します。
 - c. 有害化学薬品を徹底管理し、周辺地域の環境汚染防止に努めます。
- 4 地域社会への貢献活動や業務改善活動を通じ、環境に有益な取り組みを推進します。
- 5 従業員が環境方針に基づいて、自主的に行動できるように教育します。また、事業活動を支えて頂いている取引先にも当社の環境関連活動に理解と協力を求め、改善活動の輪を広げていきます。
- 6 環境方針は定期的又は状況に合わせて見直し、社外からの要求やその他必要に応じて公表します。



ISO14001 認証取得
JQA-EM0637 生産本部



ISO14001適用範囲



環境目標と成果 2024年

No.	環境指針	2024年の目標	成果	自己評価	2025年の目標
1	省資源	有機溶剤使用量の削減	618kg 前年度比30%減	◎	有機溶剤使用量の削減
		紙使用量の削減	3,255kg 前年度比17%増	×	紙使用量の削減
		塗料使用量の削減	2,890kg 前年度比4%増	×	塗料使用量の削減
		塩化メチレン使用量削減	3,352kg 前年度比26%減	◎	塩化メチレン使用量削減
2	省エネルギー	電力等 消費量の削減	1,190,968KWH 前年度比2%減	◎	電力等 消費量の削減
		CO ₂ の削減 4件/年以上	5件	◎	CO ₂ の削減 4件/年以上

(自己評価基準) ◎目標達成 △取り組んだが目標達成せず ×取り組みが不充分、または目標設定が不備 ー評価できず

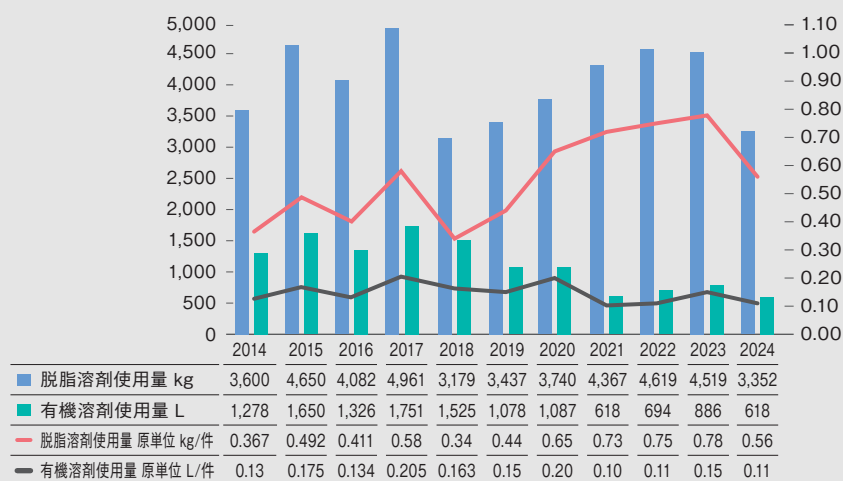
【省資源・省エネルギー】

節電は全体で取り組み、不要時消灯の励行、エアコンの利用制限などに始まり、動力源のコンプレッサ圧力調整や運転台数のコントロールを行い、不要時に大型動力が作動することを規制しています。

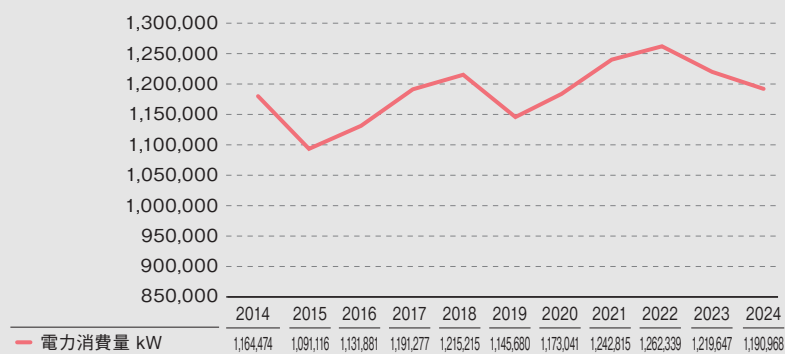
会議は手元資料の配布をやめ、プロジェクターを利用し、データの保管もLANを活用しペーパーレスを推進しています。



■溶剤使用量の削減推移 (1999年4月ISO14001認証取得のキックオフ)



■電力消費量の推移



近年、気象の変化と製造設備やパソコン等周辺機器の増強のため総電力消費量は増加しつつあります。

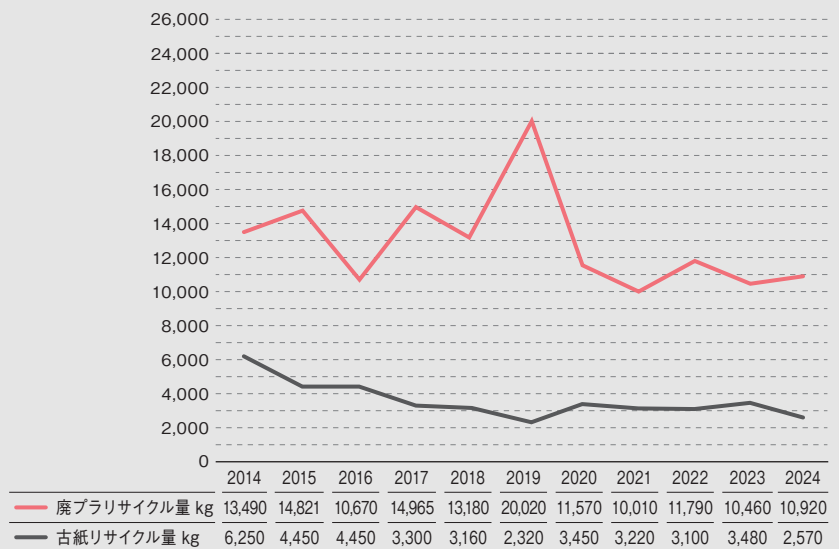
No.	環境指針	2024年の目標	成果	自己評価	2025年の目標
3	廃棄物削減	廃シナーのリサイクル率	31% 前年度比29%増	◎	廃シナーのリサイクル率
		紙類・その他のリサイクル促進	2,570kg 前年度比26%減	×	紙類・その他のリサイクル促進
4	環境配慮の商品開発	省エネ設計長寿命化改善件数 18件/年以上	17件	×	省エネ設計長寿命化改善件数 1件/年以上
5	有害化学物質の徹底管理と汚染の防止	塗料の流出流出事故「ゼロ」件	0件	◎	塗料の流出流出事故「ゼロ」件
		塩化メチレンの流出流出事故「ゼロ」件	0件	◎	塩化メチレンの流出流出事故「ゼロ」件
		廃シナーの漏れ防止流出事故「ゼロ」件	0件	◎	廃シナーの漏れ防止流出事故「ゼロ」件
		未処理水の排出流出事故「ゼロ」件	0件	◎	未処理水の排出流出事故「ゼロ」件
		汚水の排出流出事故「ゼロ」件	0件	◎	汚水の排出流出事故「ゼロ」件
		軽油の漏れ流出事故「ゼロ」件	0件	◎	軽油の漏れ流出事故「ゼロ」件
		オイル・油の漏れ流出事故「ゼロ」件	0件	◎	オイル・油の漏れ流出事故「ゼロ」件
		化学薬品の流出事故防止流出事故「ゼロ」件	0件	◎	化学薬品の流出事故防止流出事故「ゼロ」件

〈自己評価基準〉 ◎目標達成 △取り組んだが目標達成せず ×取り組みが不十分、または目標設定が不備 ー評価できず

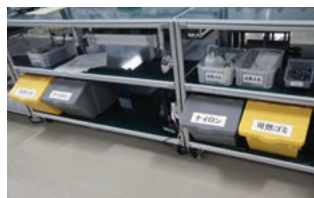
【廃棄物の削減・再資源化の推進】

事務所では、ごみの分別を行い、リサイクルすることで、資源の有効利用に努めています。事務系ごみ、生産現場の梱包材を分別することで、社内における焼却処分が不要となり、2001年1月焼却炉を撤去し、跡地は「ごみステーション」として、分別ごみの一時保管場所として有効利用しています。コピー用紙は両面利用し、廃棄時は「再生紙トイレトペーパー」と交換しているほか、電子媒体利用により紙の使用量低減に取り組んでいます。廃プラスチックのリサイクルは、サーマルリサイクルの業者に引き渡していますが、今後再生できる割合を増やしていく予定です。樹脂成形化など、使用総量削減にも取り組んでいます。

■リサイクルの取り組み



紙のリサイクル量はペーパーレス文化を推進し、徐々に減少しています。一方では特定の部品供給会社とは、「通い箱」化を進め、工場内に梱包用の紙を持ち込まないようにする取り組みも成果を上げつつあります。以前は、産業廃棄物として埋め立て処分を依頼していた生産工程で発生する廃材や、資材梱包用の「廃プラスチック」をきちんと分別し、焼却可能なプラスチックは発電所の燃料として「サーマルリサイクル」再利用しています。次の段階では、資源としての再利用「マテリアルリサイクル」へと発展させる予定です。



No.	環境指針	2024年の目標	成果	自己評価	2025年の目標
6	業務改善	3S改善活動、作業時間短縮、生産性向上、改善活動 実施件数 1,700件/年以上	1,451件	×	3S改善活動、作業時間短縮、生産性向上、コストダウン、VE、テアダウン 実施件数 1,400件/年以上
7	貢献活動	社内美化活動の推進 環境美化活動 取り組み件数 4件/年以上	2件	×	社会奉仕活動 取り組み件数 2件/年以上
		ボランティアの実施 取り組み件数 1件/年以上	5件	◎	環境美化活動、ボランティアの実施 取り組み件数 2件/年以上
8	教育	緊急時の教育・訓練 取り組み件数 9件/年以上	21件	◎	緊急時の教育・訓練 取り組み件数 9件/年以上
		協力会社へ指導 取り組み件数 10件/年以上	16件	◎	協力会社へ指導 取り組み件数 10件/年以上
		—	—	—	現場のKY活動 危険個所の改善 15件/年以上
9	環境方針	環境方針見直しの検討 1回/年以上	—	—	環境方針見直しの検討 1回/年以上

〈自己評価基準〉 ◎目標達成 △取り組みだが目標達成せず ×取り組みが不充分、または目標設定が不備 —評価できず

[有害化学物質の徹底管理 (化学物質の受け入れに関して)]

生産本部における薬品取扱に関して、下記のように規定しております。

お客様の要望でさまざまな薬品類が、生産本部に持ち込まれますが、これらを適正に処理し環境への負荷を軽減する方法を明らかにし、また作業へのさまざまなリスクを回避する目的で下記のような管理を実施しております。

実験や製品に使用される薬品、メンテナンス時のポンプに残存する薬品も対象とします。

これらは、薬品類の持込を拒むものではなく、必要情報を提供していただくことが環境保護や作業保護であることをご理解いただき、協力をお願いするものです。

■支給品の管理方法

実液試験又はメンテナンス等により客先より化学物質が支給される場合は右記によるものとしています。

1 支給品の送付前に、SDS (安全データシート) または、これに代わる資料等を送付していただく。

SDSの入手が困難な場合、次の要件を満たすことにより代わりの資料と認定します。

必須項目

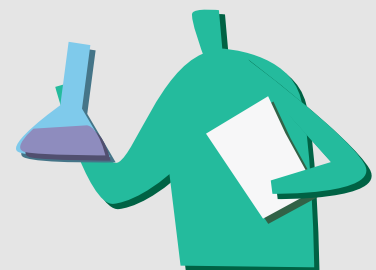
- ◎危険有害性の分類 ◎応急処置 (傷害)
- ◎火災時の措置
- ◎取り扱いおよび保管上の注意
- ◎環境影響情報・漏洩時の処置
- ◎GHS分類情報

要望項目

- ◎物質の特定 ◎物理・化学的性質
- ◎廃棄上の注意事項 ◎適用法規
- ◎輸送上の注意 ◎暴露防止措置
- ◎危険性情報 ◎有害性情報

2 有害性の判断及び登録

入手したSDS、又はこれに代わる資料を入手し、厚生労働省が推奨している「リスクアセスメント実施支援システム」に沿って「化学物質リスクアセスメントレポート」を作成し、化学物質の環境影響について検討した上で使用を決定します。継続的に使用する物に関して化学物質登録台帳に登録します。受入判断及び分類は必要に応じて環境管理責任者、専門家と協議し判断します。



[環境ボランティア]

地域社会貢献の環境ボランティア活動も24年目を迎えました。

2024年9月17日、生野地区社員 (生産本部長以下パート社員を含む) で、公共グラウンドの周囲、道路脇、河川敷等の草刈りやごみ拾い等を実施しました。朝来市役所にも搬出車両等ご協力をいただきました。



CSR (企業の社会的責任) と従業員倫理 *当社「就業規則」前文より抜粋。

1 会社の責任

会社は、従業員の人格と自主性を尊重して労働条件の維持向上を図ると共に、積極的に能力開発へ努力を傾注し、各人業務遂行意欲と士気の高揚をはかり、更に適材適所の配置を行い、全体としての人的成果を高めるように努めます。

2 社会人としての倫理

従業員は、等しく社会人としてその行動に責任を負うものであって、勤務時間外あるいは会社外であっても、公共の秩序および善良の風俗に反する行為は慎むと共に、立派な社会人としての自覚と生活態度をもってあらゆる場を通じ、地域社会および公衆に貢献することによって社会的使命を果たさなければなりません。

3 組織人・職業人としての倫理

従業員は、組織人・職業人としての使命を自覚して「会社は組織力を最高に発揮しながら働くところである。」という意識に徹し、公私のけじめを明確にして勤務時間中は、職業人(プロ精神)にめざめ定められた業務に専念し、その職責を全うしなければなりません。

社会とのかかわり [QCサークル活動への取り組み]

QC活動に積極的に取り組んでおります。2014～2015年にかけてQCサークル幹事長会社として活動し、2016年より幹事会社として活動しています。QC発表大会、研修会の実施をはじめQCサークル活動の活性化を目指して参ります。

2024年6月27日 第6547回QCサークル兵庫地区発表大会

サークル名：ムキュー
発表テーマ：サニタリー部品梱包作業時間の短縮

2024年11月21日 第6595回QCサークル兵庫地区発表大会

サークル名：ムキュー
発表テーマ：間接業務作業時間の短縮



株式会社 タクミナ

証券コード 6322

本社 〒541-0047 大阪市中央区淡路町2-2-14

営業拠点：札幌／仙台／千葉／東京／横浜／名古屋／金沢／大阪／高松／倉敷／広島／福岡
生産・開発拠点：兵庫県朝来市

●お問い合わせ ※お近くの拠点につながります。(平日 9時～17時30分 土日祝日除く)

0570-78-3971

●ホームページからお問い合わせいただけます。

www.tacmina.co.jp

こちらの二次元コード
からも、お問い合わせ
いただけます。



・弊社製品は外国為替及び外国貿易法に基づき、日本政府の輸出許可の取得を必要とする場合があります。製品の輸出や技術情報を非居住者に提供する場合はご相談ください。
・製品改良のため、予告なく仕様その他を変更することがあります。

K-019(1)-

2026/3/D--



JQA-EM0637 生産本部